



2月 調布幼稚園だより

令和7年1月30日



園長 山形美津子

『自分の心の中の鬼を追い出す節分』

暦の上では、大寒も過ぎ、ようやく春の声が聞こえる季節となりました。

猛威を振るっているインフルエンザA型は、肺炎を起こしやすい特徴があると指摘されており、幼児の感染を危惧しておりましたが、調布幼稚園では流行ることなく園児が元気に過ごすことができました。これはひとえに、ご家庭での感染対策のお陰だと感謝しております。

さて、1月には、年少組と年中組がそれぞれしながわ水族館へ遠足に出かけました。どちらの学年もバスに乗っての遠足は初めてのことでした。

年少組は初めてのことで不安に思う子もいたようですが、水族館の中に入ると大きな水槽に目が留まり、水槽の中を泳ぐ魚を見て大喜びで見入っていました。先生や友達と一緒に行くことができたことを大変喜んでいた年少組でした。

年中組も大きいバスに乗ることをとても楽しみにしていたようです。バスに乗るとマイクを手にして自己紹介をしたり、魚に関するクイズをしたりしながら楽しく過ごしました。水族館に到着すると年中組はいろいろな魚や生き物に興味をもち、大きさの違いや色の違いなど細かいところまで見ている子が多かったです。また、何をみたいかという対象の生き物がはっきりしている子もいて、目的意識をもち、それらを探すこともできました。どちらの学年も身辺自立の面で成長している姿が見られ、成長を感じました。

年長組は、これまでに培った力を結集してドッジボール大会を行いました。ボールの投げ方も力強くなり、ボールを手にしたらずぐに投げることもできるようになり、迫力満点のドッジボール大会でした。大会に向けてチームで作戦を考え、外野の決め方なども相談して決め、勝てるように結束力を高め合ってきました。勝ったときはチームのメンバーで喜び合い、負けたときには涙が出るほど悔しがる子もいました。それほど友達との関係性や絆が深まっていることに成長を感じました。残り僅かな園生活となりましたが一日一日を大切に過ごして参ります。

さて、来週早々には節分の会を行います。子どもたちは自分の心の中にはどんな鬼がいるのかをよく考えて追い出したい鬼を決めていきました。「泣きむし鬼」「だらだら鬼」「忘れんぼ鬼」など、この時期になるとその年齢なりに『自分』というものを見つめることができるようになってきます。自分の心の中の鬼を追い出してよりよい『自分』になりたいという気持ちをもつようになります。年齢によってその課題は違っても大きくなりたい自分、今より向上したい自分というものをもつ気持ちは自己肯定感にも繋がる大切な成長の一つです。節分にまつわる絵本で『泣いた赤鬼』があります。(年長組では先生が読み聞かせをしたお話) 子どもの心の成長にいろいろな課題を投げかけてくれるお話です。子どもたちの心に響いてくれることを願っています。

保護者の皆様、地域の皆様、今後ともご指導ご支援の程、よろしくお願ひ致します。

<泣いた赤鬼のお話>

日本の童話作家、浜田広介(廣介)の代表作で他に『椋鳥の夢』『りゅうのめのなみだ』も有名です。明治生まれの作家ですが、ひろすけ童話と称され、その中でも『泣いた赤鬼』の絵本は今もなお、子どもたちだけではなく大人が読んでも感動するお話となっています。毎年、節分の時期になると『泣いた赤鬼』のお話を思い出します。

いつも一人で寂しかった赤鬼は親友の青鬼に相談しました。賢い青鬼は赤鬼のために村人たちとの交流を計画してくれました。赤鬼は村人たちと心を通わせ楽しく暮らすようになります。ところがしばらくすると青鬼は、自分がいると赤鬼が村人たちとの交流が続けられないかもしれないと思い、一人で旅に出てしまいました。赤鬼は青鬼の優しさに気付くとともに、青鬼の友情に涙し、自分だけが村人たちと楽しく暮らしていたことを悔やみます。

人によって感じるころは違うと思いますが、何回読んでも心に響くお話だと思います。

2月の目標

全学年

- 冬ならではの植物の様子や、北風、雪、氷、霜柱などの自然現象に興味をもって見たり、自分たちで仕掛けをしたりし、氷が張るか試してみる。
- 冬から春への季節の移り変わりを日差しの暖かさや木の芽吹き等、様々な自然現象から感じる。
- 感染症予防のため、手洗いうがいをしっかり行う。

年少組

- 寒さに負けずに元気に外で遊んだり、簡単なルールのある遊びを楽しむ。
- 周りの動きに合わせてながら行動する意識をもつ。
- 今まで使ってきた遊具・用具を使って工夫して自分の好きな遊びを十分に楽しむ。
- 当番活動やお手伝いなどに喜んで取り組む。

年中組

- 寒さに負けずに元気に外で体を動かして遊びに取り組み、友達とのかかわりを楽しむ。
- コマなどに自分から取り組み、試したり挑戦したりして遊ぶ中で楽しさや満足感を味わう。
- 友達との遊びの中で、自分の思うようにならないことに対して相手にも思いや考えがあることに気付くとともに、一緒に考えようとする気持ちがもてるようになる。

年長組

- 学年や学級の友達と皆でする楽しさが分かり、友達との連帯感を感じながら自分の力を発揮する。
- 小学校への進学に期待をもつとともに生活に見通しをもち、場や状況に応じた行動をする。
- 残り少ない園生活を十分に楽しみ、楽しさを仲間と共有する。
- 残り少ない園生活を振り返り、先生や友達、家族の方に感謝の気持ちを言葉や行動で表す。
- 季節の移り変わりや、春の訪れなどに目を向け、興味や関心を広げる。

調布幼稚園の自然と子どもたち

「厳しい寒さの中にも春のきざしが、」

顧問 外崎明美

三学期が始まって寒さの厳しい日が続き、バケツに水を入れて仕掛けておいたところ、氷が張りました。

年長さんも畑にタライやいろいろな形の缶に水を入れて氷ができることを楽しみに置いていたところ、なんとタライに真ん丸な分厚い氷が張っていました。みんなで持っても割れず、代わるがわる持ち、大喜びでした。田んぼなど土の所には霜が降り、畑には霜柱が2センチから3センチほども立ちました。キラキラと光る氷の柱、一本一本の針のままとまりのようで、とてもきれいでみんなで「きれいだねー」と自然現象の不思議さを堪能しました。

大寒の日は一年で一番寒いといわれる日ですが、ポカポカと暖かい陽気になりました。厳しい寒さの中にも、あちこちに春の訪れを感じる兆しがありました。アジサイの新しい芽吹きや、イチゴも花が咲き実を付けていました。

年少さんが種をまいたカブも実が大きくなってきました。部屋の前に置いているので、子どもたちも興味津々で見えていました。カブは寒さに強く寒さが厳しいほど、根に栄養を溜め大きくなるのだそうです。プランターにまいたカブが大きくなって、食べられる日が待ち遠しいですね。

年中さんは畑でソラマメを育てています。霜よけに不織布を掛けているのですが、ポカポカの日には不織布をどけて水やりをします。洗濯ばさみで止めた不織布を先生と一緒に外し、水やりをした後にまた不織布をかけて洗濯ばさみで止める姿を見て、今までは先生たちがしていたことも自分たちで進んで行うようになった姿に成長を感じました。

